



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録

会議名：平成 29 年度 第 3 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）18：00～19：53

場 所：豊後大野市中央公民館視聴覚室

欠席者：田原靖憲委員、赤嶺信武委員、工藤妙子委員

1. 開 会

<p>社会教育課長</p>	<p>みなさん、こんばんは。開会の前に少しお知らせです。本日ケーブルテレビセンターからご覧のように取材がみえています。この会議の風景をちょっと撮らせて頂くことになっておりますので、もしテレビに写ったら困るという方がいましたら事前にお知らせ下さい。予めご協力をお願い致します（なし）。第 3 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会にお仕事等でお疲れのところ、また天気が下り坂になるという中お集まり頂きましてありがとうございます。また、先般 11/4 の検討委員会におきましては事務局の都合で延期ということにさせて頂きました。大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。それでは、只今から開会致します。まずは、教育長からご挨拶申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>皆さん、改めましてこんばんは。今日図書館及び資料館の建設に向けた検討委員会にお忙しい中委員の皆さまにはお集まり頂きましてありがとうございます。今回 3 回目ということで、限られた時間の中で、しかも後ろの日程が決まっている状況の中で本当に申し訳ない中での会議ということになっていますが、これまでも色々なご意見を頂きながらご協力を頂いていると共に感謝を申し上げたいと思います。今日はレジュメの中にもありますように、一つは渡部先生の方から新しい図書館の機能についてのご説明を頂きながら、皆さんからも意見を頂く、また梓設計さんの方からも資料館の展示の具体的な説明をして頂く中でご意見を頂くという、こうやって積み重ねていく中で実態とする像が皆さんの中で共有しながら基本的な計画を策定していきたいというふうに思っているの、色々な角度から意見を頂けるとありがたいと思っております。私もその後ご挨拶をする機会がないと思っております。</p>

	<p>のでこれからどんどん寒くなりますのでどうぞ、お体に気を付けてご自愛頂ければありがたいと思っております。あと、12月に予定しておりますので、その時にもご協力よろしくお願い申し上げます。これで、ご挨拶にかえさせていただきます。</p>
社会教育課長	<p>それでは、続きまして事務局からこれまでの経過についてまとめということで若干の報告をします。</p>
事務局	<p>こんばんは。まずは、レジュメの訂正があります。(レジュメの訂正と資料の確認) 前回までのおさらいということで、前回まで様々な議論をして頂いたところですが、少々意見がでたところと皆さんの意見を全部聞きたいところなんです、なかなか聞くことができない、時間の制限がありましたのでアンケートという形で回答して頂いたところです。多くの方にアンケートを頂きました。ありがとうございました。それを基にしたお話は第4回の検討委員会の時にさせていただきますと思っておりますので、割愛させて頂くんですが、一点、先程の資料A4横の用語の説明と書いてあるものがあります。こちらは、何名かの方から用語が少し分かりにくいので説明を頂きたいというご指摘を受けましたので写真を含めて補足説明ということで掲載しました。一つ一つは説明しませんがのちほどご一読して頂けたらと思います。以上です。</p>
社会教育課長	<p>経過については以上です。それでは、議事ということで渡部委員長お願い致します。</p>
渡部委員長	<p>皆さん、こんばんは。今日は、特段寒い。先程教育長からもお話があったように、タイトなスケジュールですので前向きに伺いながら、確実に前に進めさせて頂こうと思っているのでご協力頂きたいと思う。それで、前からの経過によると前年度に答申をした。答申した内容を踏まえて今日があるということで、その中で具体的な図書館の機能につきまして、65項目の新しい図書館に求める機能として委員会としては提言したところであるが、この辺は言葉ではなかなか伝わらないものだから、今日は写真を元にした方が皆さんにお分かり頂けるのではないかとということで、これを一つ一つ説明していくと時間が足りませんがダイジェスト的に説明していきたいと思う。今日はそういうことがあったものだから、設計事務所さんと今日の13時から2時間半くらいにわたって、これを具体的に(設計事務所に)説明した。これは委員長の立場として設計事務所さんには正確に伝えたいという思いがあったのでこういう機会を頂いたところである。そんな経過から今日の会議を迎えているところである。それで、ざっくりと説明すると管理</p>

部門と一般部門と児童コーナーと地域行政という郷土コーナー。その 4 つと集会機能というふうに考えて頂ければその骨格になる必要なところに、更に図でお示したようなものが展開されるというイメージに少しずつ必要になってくると事務部門には当然事務室があって、事務室は単なる事務室ではなくて機能的な事務室にしたらどうかということで提案を申し上げる。新しい図書館には今の図書館よりかなりスペースが広がって人の力で動かさないといけない部分があって、企画をたてたり、そういう部分が中心になると思うが、そうしたスペースを作るということ。あと、3、4、5のところ（別紙資料）は、新図書館の大切な機能だと思っている。それはどういうことかというところと三重に作るの、例えば朝地や犬飼だとか遠く離れたところの図書館に、図書館の姿が見えるためのその機能を持たせたところで、あと保存機能には収蔵しないといけない部分があるので6番や7番のところ、（別紙資料）7番の写真は豊後大野市と同じくらいの人口のところの岡山県の高梁市の図書館のもの。かなりのボリュームがあるが、これは見える形での収蔵機能を考えた部分である。8番（別紙資料）のところは貴重書庫とあるが、従来の図書館を工夫して展示ケースを入れて、貴重品の扱いが他の資料と差別化できるような形の工夫した棚になる。あと資料の9番、連絡調整機能というのはバックヤードに必要な機能なので、とり入れたところ。あとマイクロだとか防虫とか管理のものだが、部屋を大きくはとらないがそうした設備は備品等々が必要なものだから、そういうものを配備してほしいということ。あとラウンジ等々要望設備のご意見があったので、書架でもないし部屋でもないところの大広間にそれぞれの方が止まれる止まり木みたい空間を配備していこうというのが、従来のグループスタディブーム以来くつろぎスペースというところ。あとは創作活動スペースという部分で展開していく。資料の17から18、19、20は資料の収納の例をご提示したところ。あと図書館というのは展示等々で本に親しむ機能として重要なので、そういったものを壁のところとかに活用して空間を持ってくる。あとは郷土を知るスペースとかいうのを書架の中に入れたりだとか、集会機能を持たしたりだとか、図書館固有のいろいろな設備が必要ですので、そういった提案をしているところである。資料の23番の研究キャレルと24番の研究ラウンジが逆になっているので訂正する。キャレルというのはご不明な言葉だと思うが、個人ブースと考えて頂ければこういうイメージになる。擦りガラス風のものに仕切られた空間があるけれども、個人がそこで学習に集中できるような形。

ピアノコーナーというのはなかなか理解できないと思うが、ある図書館でピアノのコンサートが盛んに行われていて閉館の後に書架の間でやっていて、そうしたイメージの写真を載せてみた。あとはカフェだとか異分野交流コーナーとか、今ビブリオバトルというのが盛んに行われているが、実際徳島市立図書館の様子なのであるが、(資料の 27 番) 徳島大学の学生がそこに乗り込んでいろいろな方々と交流の拠点を、広場を使った授業風景を収めたもの。あとは創作コーナー。近頃は図書館で課題解決を行ったり、電子情報を元にして議論を深めながらいろいろな具体的なことにも答えようとするようなもの。あとは資料の 29、30、31 (別紙資料) のようなものは子どもの図書館のフロアのイメージ。赤ちゃんが来館されてお母さんが授乳をできるような空間。あとは子育て支援コーナー、これは今盛んに行われている。あとは、幼児のラウンジとかでお話会。あと 39 番 (別紙資料) の豊後大野学のコーナーというのは、伊万里学のコーナーという有名なものが伊万里図書館にあって、伊万里を知る資料をそこに囲っているような部分で、それは注目されている空間。豊後大野を深く知るためのコーナーで欠かせないという部分で考えている。40 番 (別紙資料) のグループ支援コーナーというのは団体活動やグループ活動を盛んにする方の様々な小冊子を置いて分類されて手に取れるようなそういうイメージ。地域行政コーナーといのは行政資料だとか公開できる資料といった報告集という感じのものが並んでいるようなコーナー。あと、暮らしと情報コーナーは日々の暮らしに役立つ資料をボックスファイルに納めたもの。レファレンスコーナーというのは調査相談コーナー。フローワークステーションというのは、事務室に閉じこもっているのではなくて、フロアの中にお客様と共にあるという、資料に導くそういうイメージ。これはドイツの資料なのであるが、こうやって出島みたいに作られるケースは日本ではあまりないが、極力お客さんに近いイメージ。後は地図のコーナーだったり楽譜とかそれぞれ資料の収納だったり、マイクロリーダーだったり。52 番 (別紙資料) の電子書籍コーナー、これは今本だけではなくて、電子情報が更に普及してそれを館内のコンピューターを通して電子書籍が読めるようなそういうコーナー。後は大活字というのは視力の衰えた方々に対する活字の大きな図書を置くコーナー。後は、56 番 (別紙資料) の多文化コーナーというのは豊後大野にもいらっしゃるかと思うが、外国人の方々が図書館を気軽に利用できるコーナーということと、57 番のレコードコーナーというのはイギリスでレコードが非常に脚光を浴びてて回想法

だとかに非常に効果を上げていて、これは広いスペースだともっともっと縮減できるという言われ方をすることもありますが、そういうコーナー。あと、自治会について知るコーナーであったりとか、文化財等々などちょっと図書館で知ることができるコーナー。ジオパークや祭事とか各地で開かれているものの資料をまとめたもの、あと新聞や、水環境というのは豊後大野は大野川水系等々のコーナー。そうしたコーナーを作ることによって水の大切さを学ぶそういうコーナー。あと、地域資源活用コーナーというのは、今まちづくりが非常に叫ばれていてそこから地域資源の産品ができたということがあったり、色々とアイデアがこのコーナーから引き出せて活用できるコーナー。そうしたものを、ちょっともりだくさんではあるが機能として求めている。写真の大きさだとかタイトルが平等にあるかということそれは別問題でして、それはワンコーナーになるかもしれないがこうしたものを織り交ぜながら、新図書館の魅力創造に一役買えればということの各コーナー。ちょっと今概略を説明したけれども、皆さま方からご不明な点があったらお答えしますのでご意見を頂ければと思う。これは、今までの昨年からの会議だとか前回前々回とか皆さん方からのいろいろなご意見、ご要望を受けてこの中に凝縮した例としてご提示したものである。それと大変身勝手なことでは申し訳ないが、今の図書館以上に利用を広める新しい図書館を作るということであるので市民の皆さんに支持されてそれが広まっていくということを考えて時に、今まで以上のものがそこに用意されないとなかなか利用されないということが私の経験上からいくとあったので、こういうちりばめた形でご提案したところ。

先程、広域ということで三重に集中するから他の地域の方々の利用も配慮しながら、ということをお願いした。それでいくとアウトリーチ活動だとか前半部分の学校支援コーナーだとか広域を頭に入れながらそこに起点を置くというのが、従来の図書館の発想にないかもしれないが、今先進事例ではそういうことに取り組んでいるのでこの考え方も取り分け入れたというところ。盛りだくさんなので、全部実現するのはなかなか難しいとは思いますが、一つ一つ出来ることからやるとこれは多くの方に利用されると私の経験上見えていたので、もし今以上のことをして利用されるのであれば、図書館に馴染みのない方にも来て頂ける。それで、もちろん図書館にずっと関わっている方にも利用頂ける。そんなことでいくとお年寄りの方から赤ちゃんまでどこか居場所があるというようなことで、資料も空間も用意されないといけな

	<p>いということになると、このような形になるのではないかと。これは出来ることと出来ないことがある。予算上のこともあるからこれは現場と設計事務所さんの一流の設計者さんがいらっしゃるので、そこはそういうものを踏まえながら空間にいかして頂ければ 2,250 m²には収まっていくのではないかと私は考える。いかがか。不易流行ではないけれど今までの図書館の諸機能も大切にしながら、新しい時代の建物を、おそらく 30 年後を意識しながら、30 年後も通用するということを意識しながら準備しないとこれは未来に向けての空間作りだと思うので、今これはひょっとして皆さん方の周辺にこのようなイメージはないとしても今の流れの中で考えて行くと、皆さん方の議論からは必要な空間ではないかと考えさせていただいた。</p>
佐藤（和）委員	<p>新しい考え方であると思ったのは、多文化コーナー。先程の説明ですと外国人の方とおっしゃたが、確かに豊後大野市は中国や韓国、APU とのつながりがあるし、そういった方が利用できる図書館機能というのを持たせれば、違う形で来られなかった人が来られるという、これはやっぱり残してもらいたいなど。スペースとしてはもっと小さくても構わないと思うが。そして 39 番（別紙資料）の豊後大野学コーナー、これは素敵だなと思うが、どのくらいのスペースになるのか、これは図書館に持ってくるよりも隣の資料館、今の図書館を改築した時にそちらの方に持っていけばそちらで研究したものを展示すればいいという、そういうふうな考え方であれば利用価値があるかなと思う。</p>
渡部委員長	<p>多文化サービスにつきましては、各国から多くの観光客の方が来て図書館に寄って図書館で情報を得て豊後大野を旅するケースもあるので、そうしたこともあるしその空間を通して国際交流という在住者の色々な特色の中でやらせてもらえるということを考えると、この多文化コーナーに資料があると人がやって来ると。これは例が適切かどうかかわからないが、東京の新大久保にはたくさんの方がいる。その地域に引き継がれる文献だとかが図書館に多くある。そうしたことを考えると豊後大野にも外国人の方が少なからずいらっしゃるので、それを通して市民の方々の活動も活発になるということもある。先程の豊後大野学にも、資料館との関わりを考えると図書館は二次資料の世界であるので、そうした文化財等々で研究成果があったものを、図書館の方にも据えて、伊万里程の大きな空間ではないけれども、書棚 1 コーナーかもしれないけどもそうした機能も両方あってもいいんじゃないかと思うけど、資料館で図書館に行ってみたくなる、図書館で資料館に行きたくなるような大きさは小さいかもしれないがそうした</p>

	<p>コーナーのイメージ。他に皆さん意見はないか。</p> <p>それと、図書館でいくと一方的に図書館側がサービスするというイメージ。これの中には市民の方から情報を寄せられるというようなことでそこに集まった資料をストックされる。市民の方も情報を提供するような双方向性を考えて、例えば各集落のコーナーがあったとすると集落の箱の中に集落の情報が区長さん等々から寄せられて豊後大野市中の自治区の物が並べられれば、自治区の宣伝スペースにもなったりするので、それでこのそういう方々にもここに参加するという意味合いもあるし、遠くの方々の地区の様子を、図書館を通して伝えられるということにもなり得るので、そういうことの実践例を踏まえたコーナーとなる。</p>
吉永委員	<p>後でこういう機会があるかもしれないが、ご提案されたのは以前頂いた平面図の中にあったのが大体網羅されているような感じで確かにこういうのがあればいいと思うが、基本的にこの間から問題になっている資料館の方のスペース、そういったところがどうなるのかなと、いよいよ資料館の拡大余地はあるのか、その辺は資料館の広さは今出ているようなもので良いのかと、資料館の件については聞いてないので、その辺の兼ね合いがどうなるのかなとすごく心配である。限られたスペースなので。</p>
渡部委員長	<p>これは今までご提示頂いた資料館の面積等々考えて、拡大して広くなると考えるという訳ではなくて機能として 250 m²が 1,000 m²になろうと、機能としてそういうものを揃えようというところなので。一つの部屋が一つの書棚になるかもしれないし、だけど基本的な機能としてはこういうことでおさえていこうというプランなので、例えば集会機能室とかホールの機能は、資料館でも学習会は必要なので共用スペースだし、トイレもおそらく共用スペースになると思う。両方が複合的な良いところを取っていくということであればそれは可能だと思う。具体的な面積等々につきましては、まだまだ決着した訳ではないけど、基本的な機能としては図書館には必要だということで。ただ、図書館サイドで行くと当初から調べた最初の段階では今の人口で考えた面積を全国の平均値で提示されていたもので出してきたが、これは 10 年後を予測した時に面積が減った段階でその面積でも実現できるのではないかと案がこれである。それと今の図書館の部分の（今後資料館となる）機能があるし、そう考えていくと現行のものよりかは狭くなるというのは考えにくいかなと私は思うが。</p>
藤内委員	<p>ざっと見ていった時に似たような部分が多い。かなりそれが研究キャ</p>

	<p>レルだとかパソコンのところだとか、そういうのを全部まとめてかになると、だんだんスペースもこの図面の中に入ってくるのかなとか思って見ていたが、いろいろこれから人を集めるということとなると豊後大野市の全体の皆さんの、例えば集会とかそういったものなるべく図書館でもらうとかいうふうになれば必然的に人も集まってくる。そうすると、人の目っていうのが問題になってくると思うが、またそれが出ると、ランニングコストだとかいろいろなものがでてくるが、そういった職員の方を増やすというのもあるかと思うが、負担とかも考えて、防犯の面からも人の目が行き届く形で図面を引いてもらいたいなと思った。</p>
渡部委員長	<p>それは当然、リスクマネジメントは必要だし、基本的にスタートは利用されるための図書館を考えた時に必要な機能が必要なものだから、今日的に新しい図書館像が求められる中でそれも織り込まないといけない。全体のキャパの限界もあるので、なかなか厳しいものがあるがこの中にもかなり重なっているものがあって、写真通りの広さではないけど、文字でいくとこういうイメージですよということを提示した。これは、今後調整をして豊後大野コーナーが書棚のコーナーに下がるかもしれないし、そうした見出しとか機能は押さえていこうという確認である。これは今後設計業者さんと市の当局者、予算的なこともあるからそこで許される範囲でエリアが決まり一つずつの面積が決まってくると思うので、そこは機能の面から見て了解頂きたいと、いかがか。</p>
佐藤（珠）委員	<p>もうこれは、充分これでいいと思うが、町おこしとかコーディネート面の面において本を探していて、もっといい本があるよとかいう人材とか、そういうような部屋とかスペースとか人材とか考えていかなければならないと、そういう人達がいって出会ってそこで何かが起こるといような図書館になれば素敵だなと思うので、ぜひそっちの方のソフト面も充実できるような。まずスペースがないと、例えば張り出しのスペースがあるが、ああいうところに常に誰かが居て相談を受けるとか専門的というような場所があるといいなと思う。</p>
渡部委員長	<p>これを動かすために人の流れが重要だが、これは執行部の方の今後の人的配置が非常に重要になってくるが、それは別として今までの答申を踏まえると、こういう機能が必要でこういう図書館を動かしていこうということの提案なので、これを変えただけではそれに従ってここに人が必要だとか村おこしや町おこしに資料を繋げる人達の立ち位置がどうなるかは後の問題だと思うので、それを最初から人を充ててや</p>

	<p>っている自治体もある。大きな例で行くと岩手県の紫波町というところで、町全体の都市計画を図書館を中心にして考えてその周辺を全部スポーツ施設からまとめたという例があるので、まあそこまで到達しなくても、図書館と資料館の二つなのでこの中の連携とか人の役割とかは今後動かすためにどういう位置付の人が居てどういう風に動かすかというのは、後から考えなくてはならない。これは鍵だと思う。これをやらない限りは新しい図書館は機能しないと思うがいかがか。</p>
渡邊委員	<p>利用者の方から見る視点というのもまた必要かなと思うが、今回のいろいろなコーナーというのは非常に良いと思うが、既に今地域の資料とかコーナーがあるし、子ども向けのスペースもあるし、食のコーナーとか既にあるので、利用者から見てこういうのが新しく加わりますとかその他の今あるスペースはもっと力を入れますとかいうような視点がもう一つ加わると市民に理解されやすいのかなと思う。これを見るとかなり豊後大野市の資料のコーナーが充実してあるので、それがもっと立派に整えられると大変いいのかなと。この中で三分の一くらいは新しいコーナーになるので、この辺は大いに説明上、新しいです、これは既にあります、それは拡大しますというような視点ももう一ついるかなという気がする。</p>
渡部委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。現行の平面図と新しい（平面図）のが確定したら、ここがこういうふうに発展しました、ここはこういうふうに拡大しました、これはどういう役割なのかというのが確定した段階で市民向けに説明できれば皆さんも納得して頂けるのではないかとその理由付けと。重要な点は新しい図書館が出来るということなので、古いところとどういうところが違うのかが明確でないとする意味が無いので、そこは新しい機能があって、こういう働きをしてということが市民の皆さんによく分かるようにすることが必要かと。まあ、不易流行だが、必要な今までのスタンスは保ちながらも新しい時代の図書館に向けて豊後大野市が新しく作る訳だから、新しい顔が見えるような形にすることが検討委員会の仕事だと思うが、いかがか。</p>
佐藤（和）委員	<p>内容の三分の一は新しい考え方である。特に人を呼び込むということをコンセプトにして昨年から色々議論されたものを渡部先生がこうやってだしてきたものだから、これをこのままでいいと思うし、面白そうだなと思う。</p>
渡部委員長	<p>現場の人、ここに図書館の太田係長がいらっしゃるけれども非常に難しい運営である。豊後大野は市の面積が広いということ。三重の方々は従来通り図書館を利用したいと、犬飼は図書館サービスを受けたこ</p>

	<p>とがないと、ちょっと語弊があるが、そういう地域差があるのでそこは全域的に図書館のサービスが見える形でここに呼び込むし、出かけていくようなそういう仕組みを作ると、それは利用できるようなことにも繋がっていくのではないかという思いからこうさせて頂いた。人が集まるということは重要だし、今まで来られなかった方々や、馴染みのない方々にメッセージを送らないと現行とあまり変わらないと思う。非常に今の旧三重地域の中で頑張っていらっしゃる。それは全域的に広げるという形になるとちょっと新しい取組も必要だとそういう観点で提案させて頂いた。いかがか。いろいろなコーナーが小さくなったり、大きくなったりするかもしれないけど、これをちりばめて設計に反映して準備をさせて頂くことについては、異議はないかと思うがいかがか。あとは、資料館との兼ね合いだから、どちらでカバーするかとか共用スペースをどうするかとかあるから、そこは今後の調整で全体を詰めていくという形でひとまずこのような形で進めさせて頂くことでご理解頂ければと思う。ありがとうございました。</p> <p>次に資料館の展示について具体的にどのようなイメージで展示をするかということタイトなスケジュールの中で求められていると私は言ったが、今日のこの委員会の議題になったかと思うが、もし資料館の展示についてご提案があれば頂ければと思う。</p>
事務局	<p>資料館の展示についてです。本日、梓設計さんの協力会社としてご協力して頂いているトータルメディア開発研究所の方が見えられています。その方からお手元にある資料（別紙A3資料）を見ながらご説明して頂きたいと思います。</p>
トータルメディア開発研究所	<p>展示の考え方と書かれたA3の資料を見て頂きたいのですが、展示のコンセプトとして、大地の営みから、豊後大野市の「多様性」を知るといふ、すなわち、9万年前の阿蘇の火山の噴火によって出来たジオサイトという環境、それによって似たような環境が生まれました。そういった特殊な環境を使って市民や業者の皆さんとともに探求し、創造し発信していく展示を目指せたらいいなと思って（この内容を）考えました。先程から話題になっている図書館と資料館の関わりについてですが、資料館はまさに本物を見る世界。図書館は本物の魅力を更に深めるのではないかと思います。図書館の機能と資料館の関わりがある部分は先程の用語集で言えば、豊後大野学コーナー、それから郷土を知るスペース、創作コーナー、情報交流スペース、そういったところが資料館を知るうえで知識を深める部分で非常に関係の深いコーナーだと思います。私達はそういうものと資料館を上手く結びつけて</p>

相乗効果のある複合施設を作りたいと思いました。図書館の一番左のところに郷土資料や、ワークテーブル、情報検索といったそういうものを一つのパッケージングしたコーナー、こういったところで知識を深めることができるのではないかと思います。それから資料館のところに、総合展示というのが真ん中にありますが、これはカテゴリー毎に資料を分けるのではなく、大地の上に自然が成り立ち、私達の歴史が始まったという色々な物のつながりを俯瞰して見られる、そういったコンセプト展示をすることで豊後大野市の魅力をさらに一般の方にも理解しやすいのではないかと思います。大地と自然と歴史という展示を行うのですがそれが密接につながっている個々の展示では、借景展示、ジオラマ展示、資料展示を使いながら物事の繋がりを見せていったりだとか、もう一つ埋蔵文化財というのが、旧石器から始まって古墳時代とあるのですが、そういった方向の資料も私達の生活の一部であり大地や自然と密接に繋がっていたものだと思います。それを切り離して展示するのではなく、そのコンセプトの中に続けて展示したらどうか。その展示の手法としては、単に広報資料を見せるだけではなく生活が見える展示や参加型の体験展示、そういった物を盛り込みながら展示を行っていったらどうかと思います。2 ページ目に総合展示とはどういうものかということでスタディをしてみました。簡単に言えばこれは展示室の平面図だと思って頂ければいいのですが、すなわち火山活動によって生まれたジオサイトという大地、それによって非常に多様な自然というのが生まれました。そこで自然の恵みを得て人々がそういった物を利用して活動し、ものを生みだしていくという世界が中央。分析しますと石像文化へのアプローチということで非常に個性豊かな地形や地質、凝灰岩や火成岩、チャート、特殊な化石鉱物など非常に多様な地質が見られます。そういったものを人々が使って古代から石の文化を作ってきた。石器や石棺、石塔や磨崖仏といった仏教美術、鉱物学や地質学等の最前線にもなったという石の文化へのアプローチが見ることができます。そしてもう一つは度重なる噴火活動によってできた特有の景観や地質等その大地の中で祖母山や傾、大崩山の原生林の中に非常に固有の希少な動植物が育まれました。そこで人々は生活の恵を得て、狩りや狩猟、信仰というのを生み出してきたと思います。そういったことが一目で俯瞰できるコンセプト展示、郷土のアイデンティティが見える展示をベースに形づくって行くと非常に外から来た方や外国の方にもこの町の良さを瞬時に分かって頂ける展示ができるのかなと思いました。もっと具体的に

	<p>スタディしてみようということで 3 ページ、4 ページ、5 ページとありますが、凝灰岩でつなぐということですが、その大噴火によって凝灰岩が垂直に削られて非常に人々にとっては不便な地形ができたんですが、逆に人は凝灰岩を削って石橋を作ったり、様々な技術を開発してきました。そうした崖下の湧水の中で生活や信仰の場を利用する人達もいました。そして、石塔や磨崖仏を加工し素晴らしい仏教美術を作りました。また、祖母山では地下の鉱物が生まれて非常に豊かな鉱床が眠り続け、この鉱物学発祥の地としてこの地を有名にした。そうして急峻なところに生まれた原生林の中にニホンカモシカが生息し、人々が山の中で生業として猟をしたり、山の神に捧げるという信仰を生みだしてきた。そういった火山噴火によってできた凸凹岩や沈墮の滝や原尻の滝といったこの地特有の地形。その中で犬飼港、岡藩の町として賑わった港には石畳が敷かれました。そして、沈墮の滝ではその高低差を利用して発電が生まれ、滝の中には魚道を通したりなどの知恵がうまれました。原尻の滝では、緒方井路をつくり、川越し祭りなどそういう文化まで発展するなど、人々の暮らしが見え隠れしています。次の 5 ページですが、生態系ということでは祖母山は針葉樹林と広葉樹林が混じわる自然林、その中にはカモシカが生息し、国指定の特別天然記念物で日本固有で九州地域では絶滅が危惧されていて非常に貴重な生物が生息しています。緒方平野では江戸時代より岡藩の重要な稲作地帯で、その周りの山岳高原地帯では、里山の谷という谷すべてに棚田が作られているという非常に特色のある大地となっています。植生ではその高低差によって、垂直文化が生まれ高低差を利用した様々な植物が生息しています。また生態も山の高さに応じて暖温帯から冷温帯までの幅広い生態を見ることができ、ソボサンショウウオやオオムラサキといった希少な生物が数多く生息しています。このように非常に素晴らしい自然と歴史のつながりを感じられることができ、地域の人が誇りとして探究や創造、発信ができる展示というものを目指していったらどうかと思います。6 ページからずっと、資料リストがありますが現資料館にお邪魔して資料を一点一点見させて頂き、今お考えの資料リストの中に入れ込んでみました。ブルーベースの中は現資料館にあります。他のベースは補足したものです。なお、お考えの中で資料がまだ目に見えないところが数多くありますので、その点は資料館の方で資料カードとして情報を整理して頂けるようお願いしております。以上が展示の考え方です。</p>
渡部委員長	ありがとうございました。今トータルメディアさんからご説明頂いた

	展示の流れ、展示リストについても言及してもらったが、皆さまこういったものは、初めてご覧になったかと思うのでご意見を頂ければと思うがいかがか。
後藤（順）委員	渡邊委員の方が御存知かもしれないが、昔、三重町は交通の中心、古道の駅とかもあって大変栄えたところなので、前方後円墳の展示を入れて欲しいと思っている。渡邊委員から言ってもらうのが一番いいかもしれないが。
渡邊委員	今概略を聞いた。ウエイトがかなりジオの方に強くあるのかなという印象を持ったんだが、ジオというのは現地に案内するのが主である。ですから、資料館で展示というのは全体像が見える形というのは必要かもしれないが、やっぱり今ある県指定の文化財とかいっぱいあるので、これ（この提案）だとあんまり印象に残らないなと思った。せっかく広く外に誇るべきものがあるのだから、このままだと影が薄いような気がする。ジオパークの関係があるので、そこにウエイトを置いたのかもしれないが、ジオパークのその後の歴史でその地域がどのように使ったかということの方を主に見るので、この昔のジオパークがどうやってできたかというような蘇生の部分ばかりを全面に出してしまうと逆に日本ジオパークの指定の方からは、ちょっとこれは何だと、もっと地域にいかしたところをみたいんだという流れからするとちょっとこれは、ウエイトが違うなという気がする。もうちょっと出てきたその後の文化にもう少しウエイトを置いて、せいぜい歴史の資料館の中でこの部分は一割か二割で、あとはその後の今日までの歴史、偉大な道がいっぱいあるので、それの方がいいのかなと。例えば、豊後刀という刀がある。これは、日本の六大産地というくらいのものが現実にいっぱいある。そういう部分が弱いのかなと。それから人々の生活の営みが主なんではないかなと思う。さっき（後藤（順）委員から）話があった前方後円墳のところも結局は、肥後や日向に向けての、日本の文化として古くから栄えたところなんだというところを見てもらいたい。外に発信したいというところ、石塔文化だとか色々な文化の主ではないかなという気がする。印象だが、詳細はもっともっと詰めるのだろうが。それからジオパークを本当にこっち（資料館）に入れたら、今ある歴史資料館の緒方のスペースだけで 300 m ² 、あと三重に元あったスペースでも 100 m ² それにジオパークを入れたら、歴史遺産のほうはえらく縮小して展示することになりかねないなど。ちょっとその心配もある。
高野係長	資料館高野です。展示についての考え方です。2 ページ目のジオパー

	<p>クだけをやっているのではありません。全て歴史の資料館です。まず、大地の歴史から人間の歴史に繋がっていくところを分かりやすく説明したというところで、ジオパークの噴火活動も地質、地形のみではありません。現在の人間がおもしろいと思わなければ、いくら火山が噴火しても地面が終局してもさっぱりおもしろくないのできっちり人間の営みを見せていくということをしかりしていきたいと考えております。トップは豊後大野というイメージを強く押し出して素晴らしいものがいっぱいあるという表示でありますので、大地と自然ばかりだと思われたかもしれませんが、特に2ページ目の右側のところですね「石の文化とくらし」というところですね。そういうふうに書かれていますので、変な資料館にはしないようにとは考えています。あと色んなリストがあつてですね、小さい字で書かれていてちょっと見にくいんですが、時代ごとにずっと並べております。その中で私が重要に思った主要なものは全部挙げております。石像文化や人の暮らし、木造仏や磨崖仏、それから埋蔵の方では古墳文化とか、近現代、特に近代化においては資料がたくさんありますので、色々と調整を考えながら地質、地形、自然環境に関わるような資料館にするというような気持ちはあります。</p>
渡部委員長	<p>私の印象からするとこれは構想なので、フレームがあつてこれは章があつて、細項目があつて、これは一番原点は実物なのであるが、実物をどこにどのように当てはめてどういう表現をするかという部分は今後だと思ふ。ともかく、こういうコンセプトでどうやるかという叩き台なので、これがひょっとしたら今後変わってくるかもしれない。資料館とか博物館は二通りあつて一つは従来型の博物館で、箱に物を集めてこようとする従来の考え方。ジオパークなんかは欧米型であるエコミュージアムの考え方で現地保存というのが主観なので、祖母山を持って来る訳にはいかないで祖母山に近い所に案内を表示してそこに行ったら博物館からサインが出ていて実物に出会う。原尻の滝や石仏もそうかもしれませんが、こうやって持ってこられるものと持ってこれられないものがあるから、写真で紹介するという形で最終的には物をどこまで持ってきて、持ってこられないものをどう表現して、最後にどう出すかということになってくるかと思うが、こういった叩き台なので、これがまた次の会議の中で具体的に練られていくと思うが、先程古墳の話もあつたけれど、それはレプリカになったり、精巧なものになることもあり得るので、今後実現可能な線に進んでいくんではないかと、きょうが始めてなのでこういう状況じゃないかと。他に皆</p>

	さん何かあるか。
吉岡委員	資料館の展示の資料を見させて頂いて、結構画期的な展示方法だなと、よくある総合資料館の場合は歴史について年代別に並べるというケースが多いと思うが、そういった形ではなくて自然と生活とか。この観点はジオパークのメインテーマであって非常におもしろいし非常にいいと思うが、私も色々考えたが、なかなか実際は難しいのではないかと思っていて、例えば歴史のところ、2 ページだけ見ても、歴史のところ磨崖仏と石橋と全然時代の違うものが来てしまうと、これを子どもとか小学生中学生に分かりやすく時代を含めて見せるとなるとどういうふうに説明するのかと、具体的に話すのは難しいのかなという印象である。もしそれがうまくできれば非常にいいものになるのではないかという風を感じているところである。具体的に埋蔵文化財センターの遺物その他、実物がどのくらい別のスペースになるかという問題があって総合展示と埋蔵文化財展示、別々にみせちゃうと対応がつかないと思う。時代的な関係が分からなくなってしまうと思う。これもやっぱりどちらかという最終的に考えた結論としては従来型に近いような、自然から入って行って、大地の創造から始まってこういう地球環境ができて、そこに人々が住み始めて磨崖仏ができ、石仏ができて、開発として石橋ができ、発電所ができてというそういう時代の流れも総合展示として見せていかないと難しいのかなという印象を持っているところである。
渡部委員長	ありがとうございます。アプローチの仕方で展示仕様も変わってくると思うので、ここは何度も協議を重ねて実現可能な展示部門と物とタイムスケジュールの中でどう準備できるかという形でどこかで諦めないといけない。そこでタイムスケジュールを逆算してこの段階で決めないといけないというところで決めないといけないかなと私は思うが、物を集めるとなると非常に難しい。一点だけではなかなか説得力を持たないので、かなり周到な準備期間が必要かなと。皆さんいかがか。
吉永委員	基本的にコンセプトというか文化財を考えた時に、40 億年前に地球ができてそれからずっと地形ができ、その上に植物が生え、人々の暮らしや歴史があって、そういったもの全部が文化財になる。文化財のネタとなる。大地自然のものについては天然記念物のようなもので、ここに書いてあるような、大地があって人々の暮らしがあって全てが文化財の対象になるんだという、そういう観点から打ち出すことが大事だと思う。どういうふうに、流れの中で示すかという点は、ある程度

	<p>の歴史の流れというものに沿っていかないと、地球ができて今に至るまでが文化財なんだということの流れをやっぱり大切にしていけないといけないのかなと思うのが一つと、今現に歴史民俗資料館にある貴重なものなんかをどういうふうにもまず展示して豊後大野市の自然や歴史、魅力をどのようにどこまで出せるのかということここからでもいいので、何とかここにそういった意味で大地からの自然歴史そういった考え方は大事だと思うが、その中でも流れは難しいと思うが、これから練っていかなければならないと思う。</p>
渡部委員長	<p>これは私見だが、和歌山に県立の博物館が 3 つ 4 つあり、博物館、歴史博物館、近代美術館。県立である。和歌山市に集中しているが、年間の入館者は一万人、閑古鳥が鳴いているということで県民から批判を頂いている。そうすると学術的に非常に正しくても利用者のことを考えた時に利用者の奇をてらったようなものはいかなものかと思うが、そこは将来的に使って頂いて豊後大野に還元できるような、そこら辺の在り方も考えていかなければと私の個人的な感想なんだが、他の皆さんもせっかくの機会なので、今回初めてのことなので、まだ多少は時間があるのでご意見いただければと思う。</p>
後藤(順)委員	<p>常設展示(物)とこれに関係するものを下に置いて、例えばジオの橋なら橋を置いて見せておいてその展示も時々変えるような、展示する場所がそんなないかと思うが。今ジオのことを言ったが、例えば三重の大昔の様子を展示して、その下にそれに関係する展示をしてという方法はどうなんだろうか。</p>
渡部委員長	<p>大切に物がくっついているのが、博物館の基本的なスタイルであるが、その見せ方がどうかということ非常に難しくて箱の中に収まらないことがある。これが博物館と資料館の難しいところである。物が本みたいに一律でほとんどの本がこのサイズに収まるが、2 cm の幅で。だけど、それがカウントできないので非常に難しいが、これは現場の方の苦勞が目に見えるようである。それとテーマ性がどうなるのかということであるが。吉永委員がおっしゃるように、今ある方向性ができるのかということが大事。</p> <p>私に関わっている和歌山の県立の施設で南方熊楠記念館の開設の準備委員をしていて今も委員をしているが、今年の 2 月にリニューアルオープンした。入館者 5 万人ぐらいのペースで来ている。場所は白浜温泉の山の上の方だが、多くの方が来た。これも展示物に非常に困ったが、色んな工夫で多くの方が来ている。私はある程度の御指導を頂かないと市民の方々に使い勝手のいい施設になり得ないと思ってい</p>

	る。色んな先進事例を検証した結果である。
吉岡委員	1 つ確認というかコメントだが、展示の目玉というか豊後大野市の代表的なものとしては磨崖仏とか石橋、古墳とかは全て実物を持って来られない。だけど、やっぱり、展示としてアピールするもの、皆さんが見に来られるものが欲しい。一つアイデアとして磨崖仏の模型を作るとか、ジオの地質の地形模型。豊後大野市全体はこういう場所であらう。こういう地形になっていて、こういう石橋ができて磨崖仏が出来たと分かるような立体模型を作る、今ある展示物ではなくて立体模型を作るための時間とか予算とかは最終的にあるのか。それとも厳しいのか。
渡部委員長	これはなかなか事務局、答えづらいだろうが、立体模型も地形模型も 1 千万仕事なのである、一体が。それは、そういうオーダーで来るので、10 個だったら 1 億円である。それに映像を駆使したりとか音響を使ったりするとこれはもう何千万の世界であるから、皆さんがお考えの億単位のお金を用意して頂くことを考えないとちょっと難しいかなと。ただお金が無い中で一生懸命頑張り、精巧なトータルメディアさんなんかそこのスタッフを雇用したいくらいの、滋賀県の山東町の伊吹山文化資料館のスタッフが作ったレプリカは精巧である。自分達でレプリカを作っている。こたつの天板を使って作っているが、展示会社から展示を作った人がスカウトされかけたくらいでこれは 5、6 万でできているくらい。これは時間をかけてこういうものを作っていくというのも一つの方法。今は 3D という表現方法もあるから、そこは工夫をして、お金をかけないことも考えていかないと。でも今からのスケジュールと予算を考えていくとできることとできないことはどこかで整理をしないといけない。トータルメディアさん、一般的に 400 m ² から 500 m ² の展示空間でかなりのお金がかかり、色々あると思うが、100 万 200 万仕事ではないと思う。いかがか。
トータルメディア開発研究所	時間の問題はクリアできるかと思いますが、予算の問題は色々、今人文系で m ² 30 万くらいが平均で推移しています。これが旧図書館の整備も入れると 7、800 m ² から 1,000 m ² の空間の整備になるかと思うんですけど、そこに 30 万かけると、2、3 億という数字になってしまうんですが、そうはせずにこのコンセプトが見える形には工夫していきたいと思っています。
渡部委員長	色々手法はあるかと思うが、“成長する展示” という形で基本的なものは押さえつつ将来は展示替えができるような余力を残しつつ、新しい発見とか色んなものに切り替えていくという方法もなくはないが、今 3 億円がないということになるとそういう手法になる。

トータルメディア開発研究所	そうですね。よりフレキシブルに改変性のある展示ということで、毎年予算の中で立体的なものに変えて行って充実させていくという方法もあります。
吉永委員	そういうことで予算的な面もあると思うが、資料館とかも結局は“人”だとは思う。(資料館に) いる人たちがどれだけ取り組んで、(予算に) 限りがある中でどれだけの工夫をしてどれだけ魅力のある展示をするかだと思うが、予算も大事であるが、市の方にはやはり人の配置に配慮して頂かないと魅力のある館にはならない。結局は“人” だなと思う。
渡部委員長	先程からそういう意見がでていた。やはり人が作って関わっていくものなので、これくらいの分量をなかなか兼務ではできないと普通は考えるが、やはり専従で、他の仕事は全部他の人がやって集中することをやらないとこのスケジュールの中で、またこのオーダーでいくのは難しいような気がするが、吉永さんも県の立場から言うと難しいと思うがいかがか。
吉永委員	博物館もそうだが、やはり学校なんかも新設する時には準備室を作って準備室の室長がそのまま校長になるとか一つの流れの中でそれに携わった人が新しくできたところ最初の5年間はしていくという流れがあると思うので、委員長が言われるように今の段階から専属でできる人が新しい館に入ってもそのままやっていけるような気持ちでやらないとなかなか難しいというのもあるし、出来上がった後の人の配置、資料館ができた後のスタッフ、図書館のスタッフなんかもどれだけ一生懸命やるかということも結局は人なので、という感じ。
渡部委員長	トータルメディアさんは別会社なのだが、某長崎の歴史資料館、博物館そこは某企業がほとんどやったが、優秀な人材が別の会社に移った。人を育てるという観点から言うと継続的に携われるような環境を作っていないと、これは一般事務の仕事をするのとはちょっと違う。奇しくも、先程吉永委員さんが言われたように新設校を作る時には一番優秀な人達でチームを作っている。まったく新しいものを作る訳だから、そこに集中して作るので、これは資料館も図書館でもまったく同じである。少なくとも専従でやらせる必要があるんじゃないかと私は思うがいかがか。当事者の方もいらっしゃる中で発言が難しいかもしれないが。
渡邊委員	今既に高野さんをはじめ資料館には優秀なスタッフが揃っているの、全体としてはそちらにおまかせするということが結構だと思うが、豊後大野市には資料館がどのような意味があるのかということ、市民に

	<p>誇りをもってもらいたいと、子どもから大人に至るまでが、やはりこの市は偉大な市なんだというところをこの資料館で全面に出すというか、来訪者が少なくてもみんなが誇りを持つというか、まちづくりの一番の中核になるようなそういう気持ちでそういう意味でこの街一番の核になるのかなと思う。各町の資料館をあちこち見て回ったが、自分達の得意なところを全面に出している。例えば佐伯なんかだと殿様の関係、臼杵は臼杵で殿様の関係を全面に出している。我々豊後大野市は、殿様はいないが、中世の昔の石塔とかそういうものは、臼杵とか佐伯には絶対負けない素晴らしい石塔とか磨崖仏、古墳や石橋があるので、市民はこれがすごいんだということがみんな分かればこれが願いである。具体的には歴史資料館の職員の方々が既にこれに携わってこれにおまかせしたらいいと思うが、スペースなどをこちらの方（検討委員会）で確保したらいいんじゃないかと思う。</p>
渡部委員長	<p>おまかせするというのは私も同感なんであるが、資料館の他の仕事をしながら、というの、また新たな仕事なのでちょっとオーバーワークになるのではないかと危惧する。</p>
渡邊委員	<p>おっしゃる通りである。今言われた通りジオパークに相当の時間を割いておられるこの時期に、スタートに当たっては人員を厚めにして、今の場所から新しい場所に移転するにあたってのプロジェクトチーム的なもので力を入れて頂かないと厳しいのかなという気がする。</p>
渡部委員長	<p>今日は初めてプランを拝見したので、なかなかアイデアが浮かばないかもしれないが、今の議論の中でお気づきの点があればご意見をお願いしたい。やはりどちらかというと図書館は生産されたものを並べるようなところであって、資料館やそういうところは作りださないといけないところなので、その性格が違うところはやや難易度が高いかなということになる。そこは今までの仕事プラスオーバーワークにならないように、他の面で軽減して頂いてそこに集中するような、そういうことが必要かなと思うがいかがか。</p>
吉永委員	<p>前の時もお話したんだが、資料館のスペースについて話がでたが、工夫ももちろん必要かもしれないが、絶対的にそれなりのスペースが必要だろうと思う。その辺について、現資料館なんかは今の資料館の計画なんか新しい資料館のスペースでやろうとしていることは、充分やれると思っているのか、その辺を資料館の方達はどう思っているのかイメージできないので聞きたいなと思った。</p>
高野係長	<p>今お手元の資料で現図書館と新たな図書館の配置図は、検討している、見直している段階で、資料館スペース等はもうちょっと広がっていく</p>

	<p>予定になるかもしれません。最初の図面でプロムナード、現図書館と新しい図書館の間を通る、そういうものはもういらんじゃないかという話が出ている。それよりももっと空間に物を置いたり展示したりとかいう風な形で見直している段階です。先程渡邊委員が言われたように市民の皆さんが本当にできて良かったと喜ぶものがないと、作る意味がない。本当にこのままでいいんじゃないかという話になりますので、そういうお言葉を裏切らないように、関係者の皆様と協力してやっていきたいなと思っております。</p>
後藤（順）委員	<p>高野係長や渡邊委員が言われたように、豊後大野市は温泉もなければ、何にもないと言われているが、すごく色々な素晴らしいものが沢山ある。石橋は全国で一番多くあると言われている。史談会でこの間ちょっと問題になったんだが、菅尾の駅の前に石橋があって、それを一生懸命川原さんという方が資料を持って来て、石橋を作る時に駅ができたために川の石橋を大水が出た時に困るからと言って壊してしまったんだが、それをジオパークの、100 くらいあるその特徴の橋を壊してしまって新しい橋になってしまっているが、その壊した石橋を少しでも何かの形で残せないかをお願いしたが、川原さんっていう方が高野係長のところには行ったようだが、またジオの会長さんのところにいったら、ジオパークとしては説明することは説明するんだけど、壊すことに関しては何にもタッチしてくれなかったと言っていた。それは一つの例なんだが、素晴らしい物があるということを皆に知ってもらう、知ってもらえるような図書館や資料館になるといいなと思う。</p>
渡部委員長	<p>それと、キャパの問題もあるかもしれないが、北海道に斜里町というところがあって、人口 12,000 人で学芸員が 5 名いるところで、私は 30 年前くらいから追っかけているが、どんどん大きくなっている。住民からご支持を頂いて、普通は先細りになるんだが、施設がどんどん増えていって、それも 1 棟 2 棟という形で増えていって、丹念に以後の活動をしていったということもあるんだが、豊後大野の場合も今の用意でいくと十分とは言えないが、基本的なスペースが用意されているんじゃないかと思う。もう一つは今の歴民。そこもまた収蔵スペースに活用したりとか電気も消したりして、ただ、民具とかがあれば第 2 収蔵庫というような考えもあるので、そこはある資源もうまく活用していってそこを有機的に結びつけば、今後豊後大野が豊かになってお金が潤沢にある時には 1 号館、2 号館と成長していくとか、今のこの段階で短い期間でどれくらいのことができるかということをもう一度精査して、展示のシナリオから物を集めることからどういう絵が</p>

	<p>描けるかということをごどこかの段階で決めてそれに向かってやるぐらいしかない。いかがか。最後は決められている訳だから皆さんのご意見を頂きながら、一步一步前に進めないといけないので、お金の限界もあるので、先程㎡ 30 万というお話があったが、そういう風にやるのかそれとももっとスリムにやるのか余力を残すのか、写真資料で留めるのか、色んな手法があると思うので、いずれかの段階で方向性を決めないと進まないと思うが、いかがか。今日は案を頂いたが、今度の 12 月 16 日の第 4 回の委員会の時にはスケジュールはどういうようなことになっていくのか。事務局</p>
事務局	<p>皆さんより色んなご意見頂きましたが、委員長が言われたように時間が無いという言葉で片付けたくはないんですが、第 4 回の検討委員会が山場になってくるのかなと思います。それから先の設計から建設、最終的には財源である合併特例債の期限がきてしまうという関係上、ある一定のところは文化財の高野係長だったり、図書館の太田係長だったりというところに於いて進めさせて頂きたい部分であります。次回には、前回のアンケートを踏まえ今日の展示に関する意見を踏まえた上で、お示したものを元に進めていきたいと思っております。もちろん、もう少し深いところまで議論をとると若干の回数を増やすことも可能ですが、ただ終わりは 1 月の末ということ念頭に進めさせて頂きたいと考えているところです。</p>
渡部委員長	<p>そのためにも今日お出し頂いた案が叩き台になっているので、この資料は持って帰られるのか(はい)。こういうものを頭の中に入れてもらいながら委員の方がもうちょっと先に進めたプランをお出し頂くか、という形で 1 か月後までに集約できるかという形で進めるのはいかがか。もう具体的にできることからしていかないと、時間のせいにしては申し訳ないが、オープンの日は決まっているのか、そうすると建築工事や展示工事にはタイトなスケジュールが要求されているので、この 1, 2 か月間の間に主なところは決めてしまわないと進まないということになる。</p>
事務局	<p>補足なんですけど、それまでの間にこういうことを思いついたとか、こういうことを勉強したので議論に反映したいということなどあれば、いつでも言って頂ければと思います。高野係長、太田係長そして小野に言って頂ければ時間の短縮になるかなと思っておりますので、皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。</p>
吉岡委員	<p>先程、資料館図書館の床面積、展示の配置について検討中と言われていたが、いつ頃どんな形で固まる予定か。</p>

事務局	<p>先程、アンケート等を頂きました文化のプロムナードはどうかとか、安全性を考えると外のテラスはどうかという意見を頂きました。何より人が大事だという意見を頂きましたので、そこで働く職員の動線であったり、業務をする上で欠かせない物等もありますので、それらも総合的に勘案しまして次回にお示しする形になると思います。そして、それと同じくらい重要さを持っているのが経費です。どれくらいの負担があつて、もちろんこれは借金ですので、後年度負担、ランニングコスト等も考えながら進めていきたいと思っています。第2回の時に示した面積の範囲内で考えていただきたいと思っています。若干増えたりすることもあるかもしれませんが範囲内で検討したいと考えておりますのでよろしくお願いします。</p>
後藤（順）委員	賛成。
渡部委員長	<p>皆さんから色んなご意見を頂いたが、結局はできることとできないことがあるので、タイムスケジュールの中で決めなきゃいけないこともあるので、12月16日には大体の方向性を決めないといけない。それで合意が頂ければそれで走るということではいかか。かなり活発なご意見を頂いたと思う。そこで、前を向いて走るしかないし、さっきの北海道の例を出すまでもなく、これで留まるのか、今後充実すれば発展することもあるので、そこは今後未来に含みを残しながら、全くの到達点ではなくて将来的には拡張したりとか、活動によって広がっていったりとかいうことを視野に入れて頂いて、予算の限度もあるのでそこは落としどころかなと感じているところである。今日は資料館展示についてはかなりの議論ができたと思うので、これで今日は終わりにしてよろしいか。その他の意見があるか。</p>
佐藤委員	<p>朝地から来ているが、最初図書館の話があつた時に分館方式、色んな町に特化した分館をどう本部図書館とつなげるのか、そういうお話までができるのか、もしくはまず図書館資料館を作って、以後の課題として残しておき、それに触れずにやっていくのか、そういうことを知りたい。</p>
渡部委員長	<p>基本的な機能の中には、将来に含みを残した学校図書館との連携とか、今あるものをどうするのかなど、スペースでは用意させて頂いているので、これも最終的にどうするかということでは来月、そこまで踏み込めれば議論させて頂きたいと思う。今のところでいくと今までプランを出して頂いた平面計画をどうするかということが喫緊の課題なので、そっちの方を優先させて頂いてゴールに導くということで良いか。決して、かつてのサービスを無視した、他の図書館にはあまりない機</p>

	<p>能で広域連携という拠点を作ることは御理解頂きたい。</p> <p>もう 1 点聞きたいが、組織の違う部分、教育委員会でない組織もあるか。今ある図書館や資料館について市長部局が管轄したり、総務が管轄したりとかはないか（ない）。千歳の公民館図書室とかも教育委員会の管轄なのか（はい）。イレギュラーでやっているところがあればそれは教育委員会の管轄外になるので、基本的な管轄は教育委員会なのかということも確認しておきたい。12 月 7 日に石川県立図書館にて話をさせていただいたら、（石川県は）図書館が教育委員会部局から知事部局に移るそうである。ほかに無いか。そろそろ時間になりそうなので、その他のところの説明を事務局。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて簡単に説明します。12 月 2 日と 12 月 3 日に市民ワークショップの予定。12 月 16 日に第 4 回検討委員会。1 月 26 日に第 5 回検討委員会を開催して、その時に教育委員会に答申ということで考えています。</p>
吉岡委員	<p>ワークショップの結果をフィードバックするタイミングというのは、第 4 回の検討委員会でかなり中身を詰めていくという段階で、ワークショップの結果をどういうふうにかすのか。</p>
事務局	<p>検討委員会の中に中学生や高校生はいないので、特に将来を担う子ども達が図書館を利用することは大いにあると思います。中学生や高校生の視点での意見を吸い上げたいなど、もちろん一般の方でこういった図書館があったらいいなというのが更にあればその辺りを 12 月 16 日にお話させて頂き、必要に応じて計画案の中に取り込めればいいなと考えております。</p>
社会教育課長	<p>それでは、慎重審議貴重なご意見ありがとうございました。渡部委員長ありがとうございました。先程今後のスケジュールを申しあげましたが、12 月 2 日、12 月 3 日にワークショップを予定しております。年内にもう 1 回検討委員会があります。ワークショップの案内、検討委員会の様子はケーブルテレビを通じて図書館の建設が進んでいますよということもお知らせしていきたいです。ワークショップでも意見を吸い上げることができればと思っておりますので、また今後も皆様方のご協力をお願いして第 3 回の検討委員会を閉じさせて頂きたいと思っております。</p>